

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 009	提案機関名 畜産課	
要望問題名 浄化槽の能力向上について		
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 先般、畜産農家の畜舎排水におけるアンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物の排水基準(暫定排水基準)が平成25年7月1日より900mg/lから700mg/lとなる省令が公布された。県内においては、今までの調査の結果から、現状の浄化施設でも対応可能な濃度である。しかしながら、今後、さらに基準値が段階的に引き下げられ、最終的には一般排水基準100mg/lとなる可能性も十分にあることから、それに向けての対応を今から検討していく必要がある。 そこで、畜産農家が導入しやすいよう、現状の浄化施設を利用しつつ、浄化能力をアップさせることができる対策(装置を付け加えたりや小さな施設を接続する等)について要望する。		
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内	
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター	
備 考		

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター畜産技術所	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	ユニット型浄化槽の改修に関する試験(平成9年度) 畜産汚水における環境負荷物質の低減技術の開発(平成14年度)		
対応の内容等	神奈川県畜産環境保全総合対策指導協議会では、当所を中心に県内畜産農家の排水性状調査や窒素低減技術の実証試験を行ってきました。平成14年度には、「畜産汚水における環境負荷物質の低減技術の開発」の成果として、回分式活性汚泥浄化槽の曝気を間欠運転にすることで、浄化機能を維持しつつ、窒素を低減できることを明らかにしました。協議会の水質実態調査の結果から、処理水性状及び窒素の動態から回分式活性浄化槽に上記のような運転方法の変更により脱窒機能を付加し、処理水性能を維持しつつ硝酸等窒素濃度を100mg/l以下に低減する技術の普及を進めています。 また、浄化処理能力が不足している事例については、ご指摘のような「畜産農家が導入しやすいよう、現状の浄化施設を利用しつつ、浄化能力をアップさせることができる対策」、例えば曝気装置の追加による送風量の増加や既存の槽を曝気槽に活用し、曝気槽容量の確保に努めるなど普及指導課を通じ個別に指導して参ります。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備 考			